

とうのありひらこうべつけふのあと
藤在衡公別業蹟

〔神楽岡かぐらをかの北をにあり、

拾芥抄に見えたり。

藤山蔭卿とうのやまかげの宅址もこゝにして、

安和二年三月十三日尚

齒会はなごを設くる事著聞集に記し、菅三品の序文は本朝文粹に著す。

惟宗孝言これむねたかことの詩に曰、

勝地かち佳名何所なほ所ろ感スル。

栗田くり別業二城

東。(無題詩出)